

## 改訂序

患者（医療）安全に係る取り組みが1999年に世界的に提言されてからこれまでに、我が国の医療機関は、医療の質の向上と安全の確保について、最優先に取り組むべき課題のひとつであることを認識し、適切な医療安全管理を推進し、患者へ安全な医療の提供に資することを目的とする医療安全管理委員会、そして、組織横断的に安全対策の立案・実行・評価を行う医療安全管理部門を設立し、日々、患者（医療）安全（Patient Safety）に取り組みに努めてきたところです。また、2015年10月1日に制度施行となった、医療の安全を確保するために医療事故の再発防止を行うことを目的とした、医療事故調査制度への実効性のある対応が求められてきました。さらに特定機能病院では、医療安全管理体制に係るガバナンスを強化するために、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務を統括する医療安全管理責任者の配置が求められ、医療安全管理部門に医師、薬剤師、看護師それぞれを原則専従とし、医療安全に資する診療内容のモニタリング等による事故を防ぐ体制の確保に努めています。

また、医療機関では、放射線診療（核医学、放射線診断、放射線治療、IVR）に係る職員（放射線診療従事者）の個人と環境に対する放射線防護対策を実施してきたところですが、2020年4月1日から医療放射線に係る安全管理体制を構築することが求められています。放射線の人体への暴露である被ばくには大きく、職業被ばく、医療被ばく、公衆被ばくがあります。職業被ばくは放射線診療従事者の被ばくですが、医療被ばくには、診断・治療の際の患者、介護者または介助者の被ばく、医学生物学研究の際の志願者の被ばくがあります。医療被ばくの中でも患者に係る線量管理について、これまでの医薬品安全管理や医療機器安全管理を含む医療安全管理体制下で、医療放射線の安全管理が組み入れられることが法制化されたのは2019年3月11日でした。このため、核医学をはじめとする放射線医学の施設／部門の職員は、これまで以上に医療機関のシステムの中で患者（医療）安全を理解して、それらに係わることが求められています。

令和元年6月刊行の『核医学安全基礎読本』第Ⅰ巻「患者（医療）安全 Patient Safety」において、世界の患者（医療）安全、日本での患者（医療）安全対策、医療機関立入検査や診療報酬の算定要件・施設基準などの視点から患者（医療）安全対策や放射線管理・診療の評価、医療被ばくを含む医療放射線の安全管理について既に説明しています。その目的は、患者（医療）安全とその体制下での医療放射線の安全管理に係る基本的情報の提供と理解の促進でした。その後も、患者（医療）安全などは目まぐるしく進化し、医療法に基づく医療機関への立入検査において検体検査の精度管理に係る項目が新たに加えられ、また、適宜、適切な医療サービスの質を担保することにもなる診療報酬が令和2年4月に改定されています。さらに、「診療用放射線の

安全利用のための指針策定に関するガイドライン」が示され、令和2年4月から実効性のある医療放射線の安全管理体制の構築が求められています。これらの最新状況をキャッチアップして、医療放射線の安全管理を包含する患者（医療）安全を理解できるように、今回、第Ⅰ巻「患者（医療）安全 Patient Safety」の改訂を行うとともに「患者（医療）安全 Patient Safety & 医療放射線安全 Medical Radiation Safety」と改題しました。

医療放射線安全（Medical Radiation Safety）の中で、医療機関において非密封放射性同位元素を利用する放射性医薬品を用いて診療を行う核医学（Nuclear Medicine）の安全を、著者らは核医学安全（Nuclear Medicine Safety）と呼びます。そして、核医学診療における職員の放射線防護と患者被ばくに係る医療被ばくの安全を患者（医療）安全の中で考え、実践する「核医学安全 Nuclear Medicine Safety」の理解を深めることを目的とする書籍シリーズ『核医学安全基礎読本』は、令和元年10月刊行の第Ⅱ巻「核医学安全のための科学知識と技術スキル Scientific Knowledge and Technical Skills for Nuclear Medicine Safety」、令和元年12月刊行の第Ⅲ巻「内用療法 Radionuclide Therapy」、令和2年1月刊行の第Ⅳ巻「放射免疫測定法 Radioimmunoassay」、今回の第Ⅰ巻改訂「患者（医療）安全 Patient Safety & 医療放射線安全 Medical Radiation Safety」を合わせて全4巻となります。

少し前に、拙本『SPECT 基礎読本』と『<sup>18</sup>F-FDG-PET 基礎読本』を相次いで医療科学社から上梓しました。とかくブラックボックス化しやすい核医学画像検査に係る適切な専門的知識などを十分に理解し、この改訂された第Ⅰ巻「患者（医療）安全 Patient Safety & 医療放射線安全 Medical Radiation Safety」をはじめとする「核医学安全基礎読本」シリーズとともに患者（医療）安全とその体制下の医療放射線の安全管理、専門知識に裏付けされた核医学安全（Nuclear Medicine Safety）の実践とそれらを深層から支える核医学の安全文化（Nuclear Medicine Safety Culture）の醸成に役立ただければ著者冥利に尽きるころです。

「核医学安全基礎読本」シリーズの内容も著者がIAEA 在職当時およびその後の同コンサルタントとして関わっている様々な活動などで得られた知識や経験に基づいています。

最後に、本書の意図を温かく御理解いただき、完成に向けて多大な御尽力をいただいた（株）医療科学社 代表取締役 古屋敷信一氏、出版部 齋藤聖之氏をはじめとする同社の方々に厚く御礼を申し上げます。

2020年（令和2年）7月

著者